



発行：株式会社日本レジャーチャンネル
〒108-0073 東京都港区三田3-12-12
笹川記念会館9階
電話 03-5443-2759
ウェブサイト：http://www.jlc.ne.jp
発行人：広瀬 秀貴
協力：公益財団法人日本ゲートボール連合

女子は埼玉県、男子は岐阜県が第1位に輝く！

熱戦レポート！

第72回国民体育大会「公開競技」ゲートボール競技会（主催：公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本ゲートボール連合など）が、9月2日（土）～3日（日）に愛媛県松山市の北条スポーツセンター球技場で開催された。瀬戸内海の海原を望み、目の前が海水浴場という、すばらしいロケーションの地で、男子と女子に分かれ、全国10地域と開催県での予選会を勝ち抜いた各16チームが高レベルな熱戦を繰り広げた。

女子

朝霞高校OG中心の埼玉県が初の金メダル！

女子の優勝候補は、10～20代中心で前回優勝の岩手県、平均年齢34・8歳の今大会最年少チームの埼玉県、幼少の頃から全国大会で活躍した木村光子選手（33）を主将に迎えた青森県などがあげられるが、迎え撃つシニア層チームの顔ぶれがすごい。北海道、東京都、石川県、高知県、愛媛県など全国大会上位の強豪が揃った。

リーグ戦では優勝候補の岩手県が東京都に敗れ、得失点差でコート3位となり、姿を消すという波乱があった。東京都は1998年の第13回全国選抜大会で準優勝したセブンクラブのメンバーで息の長い好チーム。



プレー中も笑顔がこぼれる埼玉県選手

決勝トーナメント戦に入ると、1回戦で東京都が高知県に惜敗。高知県は2014年の第29回全国選抜大会で優勝した高知レディースのメンバーでベテランチーム。他、埼玉、石川、青森県が勝ち進んだ。

準決勝、青森県と高知県の対決は若き司令塔の青森県が高知県を抑え切った。石川県と埼玉県の対決は終盤に埼玉県が逆転勝ちを収めた。

決勝、先攻の埼玉県は1巡目に全球が第1ゲートを通する早い攻めで、後攻の青森県を序盤から圧倒し、初の第1位に輝いた。埼玉県は、全国ジュニア大会常連の朝霞高校ゲートボール同好会OGの20～30代を中心とするチーム。同好会顧問教諭の越前浩司監督（左の集合写真左端）が司令塔を務め、試合中はメンバー同士、「大丈夫！」「気を付けて！」などの声かけを絶やさず、バツグンのチームワークを発揮した。



「ゲームを楽しもう、1試合でも多くプレーしよう」と競技会



喜びを爆発させる埼玉県メンバー

第72回国民体育大会ゲートボール競技会



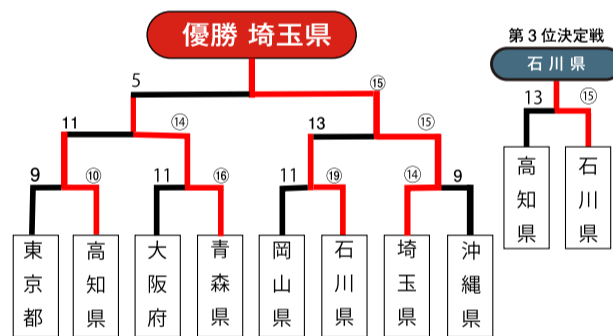
第2位

に臨みました。全国ジュニア大会を含め、初の金メダル。越前先生にやっとなメダルをプレゼントできました」というメンバーの言葉に越前監督もホロリと涙いっばい、喜びの金メダルとなった。

女子リーグ戦結果

※4チームごとのリーグ戦で、◎チームが決勝トーナメント戦に進出

1コート	2-1	3コート	2-1
◎東京都	0-3	◎岡山県	2-1
◎和歌山県	2-1	◎青森県	1-2
◎沖縄県	2-1	◎北海道	1-2
◎岩手県	2-1	◎愛媛県	1-2
2コート	1-2	4コート	2-1
◎石川県	1-2	◎高知県	0-3
◎岐阜県	1-2	◎宮崎県	1-2
◎大阪府	3-0	◎富山県	1-2
◎長崎県	1-2	◎埼玉県	3-0



決勝で大活躍した岐阜県の赤7番打者

男子

岐阜県が第70回国体に続き、2回目の第1位！

男子は、50代以下の選手がいないシニア中心のチームは、わずか5チーム。全日本世代交流大会、全国選抜大会、全国ジュニア大会などで活躍したジュニア、ミドルの選手たちが加わっているのは11チーム。まさに新旧の対決の場となった。

優勝候補の筆頭は、第70回国体優勝以来、2年ぶりの出場となる岐阜県。2016年の第7回アジア選手権大会で第3位となった大垣心友会の10～20代メンバーで、今回もエンジン全開で2度目の優勝をにらんでいた。対抗馬としては前回第2位の新潟県、第70回国体で第4位にとどまった岩手県、2016年の第31回全国選抜大会優勝の都城友の会メンバーの宮崎県など、屈指の強豪が顔を揃えた。

リーグ戦で、大番狂わせとなったのが新潟県。3戦全敗で敗退。もともと宮崎県、東京都と強豪が同リーグであった



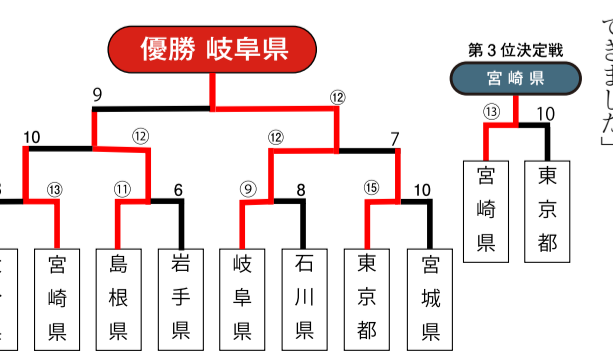
第1位

ゲームを進め、5巡目に満を持してスタートに残っていた赤7番が第1ゲートを通するやいなや、白4球をアウトボールにして島根県のチャンスの芽を摘み取り、快勝した。

男子リーグ戦結果

※4チームごとのリーグ戦で、◎チームが決勝トーナメント戦に進出

5コート	3-0	7コート	3-0
◎大分県	0-3	◎岐阜県	2-1
◎北海道	2-1	◎岩手県	1-2
◎宮城県	2-1	◎徳島県	1-2
◎奈良県	1-2	◎沖縄県	0-3
6コート	2-1	8コート	1-2
◎石川県	0-3	◎滋賀県	2-1
◎愛媛県	3-0	◎宮崎県	3-0
◎島根県	3-0	◎東京都	3-0
◎埼玉県	1-2	◎新潟県	0-3



第2位の島根県は20代の若手がベテランメンバーを好リード

大会結果

第30回発祥の地杯 全国ゲートボール大会

ゲートボール発祥の地・北海道芽室町で毎年開催されている標記のオープン大会が8月26日(土)～27日(日)に芽室南公園運動広場で行われた(主催：芽室町、芽室町教育委員会)。

今大会は、30回目の節目とゲートボール生誕70年を迎えた記念大会として、前日25日(金)には、「若い世代のゲートボール振興と現状」と題された対談と事例報告が行われ、全国ジュニア大会優勝多数の作新学院高校ゲートボール部顧問教諭などから若い愛好者の現状や課題が語られた。さらに「三遊亭円楽記念落語会」も行われ、大会参加者や芽室町の人々も参加して落語や漫才を楽しんだ。

大会には、徳島県や関東地域からの参加も含む90チームが出場。円楽さん率いるチーム円楽のほか、先に開かれた全国ジュニア大会にも参加した青森山田(青森)・作新学院(栃木)・白樺学園(北海道)などの高校生チームの姿も見られた。



高校生にアドバイスする円楽さん

初日は5チームによる予選リーグ戦により1～5位のクラスを決定。翌日は3～5チームによるクラス別リーグ戦、続いてクラス別リーグ戦の1位チームによる決勝トーナメント戦を行った。決勝は、20～30代中心の千代田クラブ(東京)と、前回優勝の釧路湿原(北海道)



後列が優勝の千代田クラブ(東京)

の対戦となり、千代田クラブが16対8で初優勝した。

優勝 千代田クラブ(東京)
準優勝 釧路湿原(北海道)
第3位 作新ネクス(栃木)

第31回北関東ゲートボール選手権大会

公益財団法人日本ゲートボール連合と北関東地域ゲートボール協議会主催による標記大会が9月2日(土)～3日(日)、茨城県かすみがうら市のあじさい館コミュニティ広場で開催された。

今大会には、埼玉、群馬、栃木の計48チームが出場。1日目は1次リーグ戦として、12コートで4チームリーグ戦を行い、各コート1～4位の順位ごとのグループを決めた。2日目、1位グループは3コートで4チームリンク戦のあと、コート1～2位の6チームによる決勝トーナメント戦を行い、入賞チームを決定。また、2～4位チームは4チームリーグ戦で各グループの1～3位を決定した。



優勝のさくら(栃木)

1位グループの決勝は、さくら(栃木)が10対9の接戦で、前回第3位のかわせみ(埼玉)を破り、優勝した。

1位グループの決勝は、さくら(栃木)が10対9の接戦で、前回第3位のかわせみ(埼玉)を破り、優勝した。

観戦に行こう!

内閣総理大臣杯

第34回全日本世代交流ゲートボール大会
15歳未満・15歳以上65歳未満・65歳以上の3世代の選手でチームを編成し、各世代が連繋して競技する公益財団法人日本ゲートボール連合主催の全国大会。全国から48チームが出場予定。世代を超え、誰もが楽しむことのできるゲートボールの魅力に溢れた大会です。

【期日】10月7日(土)～8日(日)
7日 開会式12:00～
8日 閉会式終了13:00
【会場】大分県大分市
大分市菅原上競技場(天然芝)

ゲートボールに夢中!

河南クラブ(島根県)

若手とベテランが息を合わせての国体第2位!

表面で特集した第72回国体ゲートボール競技会で第2位に輝いた島根県は、出雲市の3地区で活動している強豪チームから主将などを務める主力クラスが集まった50～60代メンバーに、全国ジュニア大会で優勝経験もある出雲西高等学校ゲートボール部OBの20代選手2名が加わったチーム。地元では河南クラブとして活動しています。



国体初出場で「とても緊張している」という皆さんですが、固くなりすぎず

リラクセスしている様子。その理由をお伺いすると、「会場の人工芝がプレーしやすいので安心して打撃できる」とのこと。その言葉通り、笑顔で、ときにはジョークを飛ばしながら、プレーを楽しんでいる印象でした。そして、圧倒的な経験値を誇るベテランと、勢いのある若手メンバーによるコンビネーションが光っていました。

リーグ戦のとき、「今回は優勝を目指してはいますが、まずは1戦1戦に集中して勝利を積み重ねていきたい」とフレッシュに語っていた勝部幹大主将(写真左端・22歳)でしたが、試合が終わってみれば、第2位という好成績!

「ふだんはそれぞれのチームでプレーしていますが、気心の知れたメンバーならではのチームワークで、ここまで来られた」と(勝部主将)

レジャーチャンネル オンデマンド
アーカイブ番組も充実 見逃し再生 専用アプリ視聴
レジャーチャンネル 全8ch
インターネット配信START!
スカパー!レジャーチャンネル加入者は追加料金不要!
スマホ・PC・タブレットOK!

『スーパーゲートボール』10月の番組表

日	土曜日	日曜日
30日	第22回全国ジュニア大会 2部クラス 準決勝 大湯(新潟) vs 緑ヶ丘ジュニア(岐阜) コーナー：序盤の作戦説明先攻編 チームインタビュー：相模球友、清流レディース	第22回全国ジュニア大会 男子1部クラス 決勝 大垣ジュニアA(岐阜) vs もんちゃんず(岩手) コーナー：序盤の作戦説明後攻編 チームインタビュー：飛騨高山桜山、やまなみクラブ
7日	第18回全国社会人大会 決勝トーナメント1回戦 さぬき市社協(香川) vs 栃木市役所(栃木) コーナー：先攻後攻両チームが使用する序盤の作戦 チームインタビュー：サンクラブ愛、はびねす	第18回全国社会人大会 決勝トーナメント2回戦 霧島消防(鹿児島) vs 札幌市役所 GB 同好会(北海道) コーナー：次の行って(ジュニア編) (Eフォースクリアンサス・もんちゃんず・白樺学園女子の監督、主将) チームインタビュー：栢ノ木、菊川ドラゴン
14日	(再放送) 7日(土)と同内容	(再放送) 8日(日)と同内容
21日	第18回全国社会人大会 準決勝 ジャトコ(静岡) vs 健祥会キング(徳島) コーナー：次の行って(社会人編) (浦安市役所・ライジング郡山・霧島消防の各主将) チームインタビュー：新城とおりゃんせ、富士スノーファルコン	第18回全国社会人大会 決勝 霧島消防(鹿児島) vs 健祥会キング(徳島) コーナー：昨年度の大会作戦解説 チームインタビュー：松阪さず、芭蕉クラブ
28日	(再放送) 21日(土)と同内容	(再放送) 22日(日)と同内容

JLC レジャーチャンネルで放映している『スーパーゲートボール』は、全国大会を中心に、現在まで約1600試合を放映しています。1試合をノーカットで解説とともに振り返り、チームインタビューなども収録。様々なチームの作戦を学べるほか、技術向上にも役に立つ内容となっていますので、ぜひご覧ください。

●視聴方法:CS デジタル放送「スカパー!」680チャンネルでご覧いただけるほか、全国ケーブルテレビ局にて放映中。
●放映日&時間:毎週土曜日・日曜日 朝6:00～7:00
●番組内容:視聴等に関するお問い合わせ先:レジャーチャンネルサービスセンター TEL 03-3815-0320
●10月の見どころ:今年7月29日(土)～30日(日)に埼玉県熊谷市で開催された『第18回全国社会人ゲートボール大会』からの熱戦を10月7日(土)よりお届けします。また、番組最後のチームインタビューでは『第21回JLC杯スーパーゲートボール大会』出場チームに「忘れられない出来事」について語っていただきます。

読者からのおたより

- ★8月号特集「人気ゲートボール用品」では、日本ゲートボール連合認定用品について詳しく書かれていて、よくわかりました。自分は、今年の全国ジュニア大会に出場しましたが、とても良い経験ができました。これから「スーパーゲートボール」を読んで、他のチームの良いところを吸収して強くなりたいです。(茨城県 Tさん 15歳)
- ★本紙は情報が新鮮で、興味深く、楽しく目を通しました。(長崎県 Kさん 74歳)
- ★8月号で「第32回東北地域ゲートボール選手権大会」の結果を見たら、優勝から第3位まで岩手県のチームでしたが、来年は山形県が入賞するようにがんばります。(山形県 Mさん 67歳)
- ★紙面をもう少し増やして、いろんな情報を載せてほしいです。(北海道 Mさん 13歳)
- ★8月号のようなプレゼント企画があるとワクワクします。僕は近畿大会に出場して3位でした。優勝チームが強くて優勝できませんでしたが、紙面の大会結果にチーム名が載っていたのでうれしかったです。これからもゲートボールを長く続けようと思えました。(京都府 Tさん 13歳)

投稿募集中!

「ゲートボールに関する話」や「本紙と番組に対する意見や要望」など、読者の皆様からの投稿を募集しています。採用させていただいた方には「JLC オリジナルカード」を贈呈します。投稿は、郵送または電子メールで、住所、氏名、年齢を明記の上、次の宛先までお送りください。※投稿者の名前等を紙面に掲載させていただくことをご了承ください。匿名希望の場合は、その旨、お書きください。ご記入いただいたすべての個人情報は厳重に管理し、紙面編集業務以外の目的には使用いたしません。

○郵送の場合
〒113-0034 東京都文京区2-31-24-801
スーパーゲートボール編集部

○電子メールの場合
supergateball680@gmail.com